備えあれば患いなし：リダンダンシー（余分な物）の必要性について

人にはどうして目が二つあるのでしょうか？耳が二つ、腕が二本、足が二本、腎臓が２つあるのでしょうか？

言ってしまえば一つで必要十分であり、２つは要りませんよね？余分な物ですよね？

何故に目が２つあるのか？それは、目を一つ潰されてももう片方があれば視覚は完全には奪われないからです。

余分な物がある事は、非効率的に思えるかもしれませんが、何か災難があった時の砦となるわけです。

リダンダンシーとは工学系の分野で頻繁に使われるコンセプトであり、機械の作用に関する重要な部分が壊れた時の予備として機能する装置などを組み込んだりするわけです。

例えば、飛行機。

飛行機にはエンジンが複数積め込まれているわけです。それは、地上一万メートルと言う高さを飛行している時に、もしエンジンが逝ってしまった時のためにあります。

リダンダンシーは保険を持つと言う風に言い換えても良いかもしれません。

人は哀れな事に非常に自信過剰になりがちです。

自分は大丈夫、自分には起こらないと。

しかし、世界はあなたが思っているよりも遥かに非情でランダムなイベントがたくさん起こり得るのです。

受験や就職活動であればすべり止め、ビジネスであればプランB、もしもの時に備える事は後ろ向きな考え方では無く、保険と言うよりも投資と言う言い方の方がふさわしいかもしれませんね。